

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当社は、当事業年度より、2026年度を最終年度とする3ヵ年中期経営計画「熱く、高く、そして優しく2026」をスタートしました。「利益重視経営による更なる企業価値向上」を基本方針として、デジタルを活用した生産性の向上と資本コストを意識した事業運営による「収益力の強化」、新製品投入や海外事業の拡大を軸とした「成長戦略の推進」、並びにESG（環境、社会、ガバナンス）への取り組みの継続による「経営基盤の強化」を推し進めるとともに、外部環境変化への適応力を一層強化し、売上・利益の拡大と持続的な企業価値向上を目指しています。

当第1四半期連結累計期間における当社を取り巻く市場環境は、脱炭素化やデジタル化に向けた投資の拡大を背景に、自動車の電動化、エネルギーの安定供給、省エネ等の継続したニーズの高まりにより、製造業やデータセンターにおける設備投資が堅調に推移した一方で、中国経済の低迷継続等を背景に工作機械関連等の需要は低調に推移しました。また、足元では電動車（xEV）の市場にも変化が見られ、今後の需要動向には注視が必要な状況となりました。

このような環境のもと、当社は、拡大する需要に対応したパワー半導体の生産能力増強や、顧客需要に対応した生産体制の最適化、地産地消の推進等により、収益性向上に継続して取り組みました。

当第1四半期連結累計期間の連結業績の売上高は、「インダストリー」「半導体」「食品流通」が増加し、前年同期に比べ22億円増加（1%増加）の2,364億円となり、過去最高を更新しました。

損益面では、原材料価格の高騰影響や、研究開発費、生産能力増強に係る費用の増加があったものの、製品販売価格の値上げや原価低減の推進、為替影響等により、営業損益は前年同期に比べ26億円増加の173億円、経常損益は前年同期に比べ31億円増加の183億円となり、営業損益、経常損益ともに過去最高を更新しました。親会社株主に帰属する四半期純損益は前年同期に投資有価証券の一部を売却し特別利益に計上した影響により、前年同期に比べ8億円減少の115億円となりました。

当第1四半期連結累計期間の連結経営成績は次のとおりです。

（単位：億円）

	2024年3月期 第1四半期連結累計期間	2025年3月期 第1四半期連結累計期間	増減
売上高	2,341	2,364	22
営業損益	147	173	26
経常損益	151	183	31
親会社株主に帰属する 四半期純損益	123	115	△8

部門別の状況

《エネルギー》

売上高：682億円（前年同期比 6%減少） 営業損益：33億円（前年同期比 17億円減少）

発電プラント分野及び施設・電源システム分野の大口径案件影響や、器具分野の需要減少等により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。

- ・発電プラント分野は、前年同期の再生可能エネルギー大口径案件の影響等により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
- ・エネルギーマネジメント分野は、太陽光発電向け大口径案件の減少があったものの、電力向け変電機器、産業向け変電機器の大口径案件の増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・施設・電源システム分野は、データセンター向け需要は堅調に推移したものの、海外における半導体メーカ向け大口径案件の減少により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
- ・器具分野は、機械セットメーカ向け需要の減少等により、売上高は前年同期を下回りました。営業損益は、売上高の減少と原材料価格の高騰影響により、前年同期を下回りました。

《インダストリー》

売上高：802億円（前年同期比 1%増加） 営業損益：20億円（前年同期比 20億円増加）

オートメーション分野、社会ソリューション分野及び設備工事分野の需要増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

- ・オートメーション分野は、ファクトリーオートメーションにおける低圧インバータの需要減少があったものの、プロセスオートメーションにおける駆動制御システム等の需要増により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・社会ソリューション分野は、原子力関連の大口案件の増加や、鉄道車両システムの案件差等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・DXソリューション分野は、ITソリューションにおける大口案件の減少等により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
- ・設備工事分野は、工事案件が堅調に推移し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

（注）当第1四半期連結会計期間より、従来の「ITソリューション分野」を「DXソリューション分野」に改称するとともに、「情報ソリューション」を「社会ソリューション分野」から「DXソリューション分野」へ移管しております。なお、各分野の前年同期比につきましては、前年同期の数値を移管後の分野に組み替えたうえで算出しております。

《半導体》

売上高：539億円（前年同期比 6%増加） 営業損益：77億円（前年同期比 6億円増加）

- ・半導体分野は、産業分野向けパワー半導体はFA関連の需要減少があったものの、電動車（xEV）向けパワー半導体の需要拡大や為替影響により、売上高は前年同期を上回りました。営業損益は、パワー半導体の生産能力増強に係る費用の増加、原材料価格の高騰があったものの、売上高の増加やコストダウンの推進、為替影響により、前年同期を上回りました。

《食品流通》

売上高：307億円（前年同期比 11%増加） 営業損益：52億円（前年同期比 20億円増加）

- ・自販機分野は、売上高は前年同期と同水準となりましたが、原価低減の推進等により、営業損益は前年同期を上回りました。
- ・店舗流通分野は、新紙幣発行に伴う改刷対応特需を主因に、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《その他》

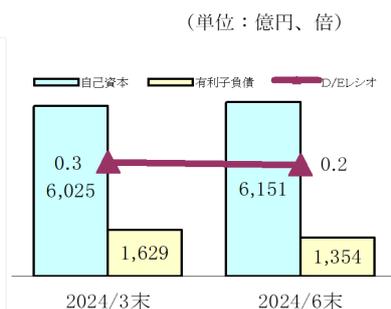
売上高：138億円（前年同期比 13%減少） 営業損益：8億円（前年同期比 3億円減少）

（注）前第3四半期連結会計期間より、組織構造の変更に伴い、報告セグメントを従来の「パワエレ エネルギー」、「パワエレ インダストリー」、「半導体」、「発電プラント」及び「食品流通」から、「エネルギー」、「インダストリー」、「半導体」及び「食品流通」に変更しております。なお、各セグメントの前年同期比につきましては、前年同期の数値を変更後の報告セグメントの区分に組み替えたうえで算出しております。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

	2024/3 末	構成比 (%)	2024/6 末	構成比 (%)	増減
総資産	12,712	100.0	12,524	100.0	△188
有利子負債残高	1,629	12.8	1,354	10.8	△275
自己資本	6,025	47.4	6,151	49.1	+126
D/E レシオ	0.3		0.2		△0.1

*自己資本=純資産合計-非支配株主持分
*D/E レシオ=有利子負債残高/自己資本



当第1四半期末の総資産は12,524億円となり、前期末に比べ188億円減少しました。流動資産は、棚卸資産が増加した一方、売掛金の減少などを主因として、443億円減少しました。固定資産は、有形固定資産の増加などを主因として、255億円増加しました。

有利子負債残高は、当第1四半期末では1,354億円となり、前期末に比べ275億円の減少となりました。なお、有利子負債残高から現金及び現金同等物を控除したネット有利子負債残高は、当第1四半期末では702億円となり、前期末に比べ272億円の減少となりました。

純資産は、為替換算調整勘定の増加などにより、当第1四半期末では6,740億円となり、前期末に比べ125億円の増加となりました。なお、純資産合計から非支配株主持分を控除した自己資本は前期末に比べ126億円増加し、6,151億円となりました。D/Eレシオ（「有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末に比べ0.1ポイント減少の0.2倍となりました。なお、ネットD/Eレシオ（「ネット有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末に比べ0.1ポイント減少の0.1倍となりました。

当第1四半期連結累計期間における連結ベースのフリー・キャッシュ・フロー（「営業活動によるキャッシュ・フロー」＋「投資活動によるキャッシュ・フロー」）は、392億円の資金の増加（前年同期は67億円の増加）となり、前年同期に対して325億円の資金流入額の増加となりました。

〔営業活動によるキャッシュ・フロー〕

営業活動による資金の増加は662億円（前年同期は120億円の増加）となりました。これは、棚卸資産が増加し、仕入債務が減少した一方で、税金等調整前四半期純利益の計上並びに売上債権及び契約資産が減少したことなどによるものです。

前年同期に対しては、543億円の資金流入額の増加となりました。

〔投資活動によるキャッシュ・フロー〕

投資活動による資金の減少は270億円（前年同期は53億円の減少）となりました。これは、有形固定資産を取得したことなどによるものです。

前年同期に対しては、217億円の資金流出額の増加となりました。

〔財務活動によるキャッシュ・フロー〕

財務活動による資金の減少は432億円（前年同期は449億円の減少）となりました。これは主として、コマーシャル・ペーパーの減少並びに長期借入金の返済によるものです。

これらの結果、当第1四半期末における連結ベースの現金及び現金同等物は、前期末残高に対して3億円減少し、653億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第1四半期連結累計期間の連結業績動向等を踏まえ、2024年4月25日の決算発表時に公表した2025年3月期第2四半期連結累計期間及び2025年3月期通期の連結業績予想を修正することといたしました。

第2四半期以降の為替レートは、140円/US\$、150円/EURO、19.5円/RMBを前提としています。

(第2四半期連結累計期間)

(単位：億円)

	前回発表	今回発表	増減
売上高	4,940	4,940	0
営業損益	355	355	0
経常損益	330	330	0
親会社株主に帰属する四半期純損益	200	295	95

(参考：第2四半期連結累計期間 部門別)

(単位：億円)

	前回発表		今回発表		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	1,490	87	1,490	87	0	0
インダストリー	1,730	62	1,730	62	0	0
半導体	1,170	169	1,130	149	△40	△20
食品流通	520	55	560	75	40	20
その他	260	16	260	16	0	0
消去または全社	△230	△34	△230	△34	0	0
合計	4,940	355	4,940	355	0	0

(通期)

(単位：億円)

	前回発表	今回発表	増減
売上高	11,140	11,140	0
営業損益	1,090	1,090	0
経常損益	1,095	1,095	0
親会社株主に帰属する当期純損益	765	805	40

(参考：通期 部門別)

(単位：億円)

	前回発表		今回発表		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	3,480	310	3,480	310	0	0
インダストリー	4,140	360	4,140	360	0	0
半導体	2,450	370	2,410	350	△40	△20
食品流通	1,020	92	1,060	112	40	20
その他	550	37	550	37	0	0
消去または全社	△500	△79	△500	△79	0	0
合計	11,140	1,090	11,140	1,090	0	0